



## 第 69 回応用物理学会学術講演会 (2008 年秋季)

## 総 論

講演会企画運営委員長 鈴木 実\*

第 69 回 (2008 年秋季) 応用物理学会学術講演会が、2008 年 9 月 2 日 (火) から 9 月 5 日 (金) までの 4 日間、中部大学 (愛知県春日井市松本町) で開催されました。会期前半は雨模様でしたが、幸い事故もなく、また、恐れていた猛暑にも見舞われず、緑豊かなキャンパスに 7010 名の参加者を得て、盛況のうちに講演会を終えることができました。

今回は、中部大学の先生方を中心に現地実行委員会が組織され、講演会開催に向けて献身的に準備を進めていただきました。現地実行委員長の名古屋大学・財満鎮明先生、副委員長の中部大学・岡島茂樹先生、名古屋大学・堀勝先生をはじめ、現地実行委員会の諸先生方のご尽力に厚く感謝申し上げます。また本講演会では、大学の理解あるご支援とご配慮のもとに、広々とした教室と整ったさまざまな設備を使わせていただくことができました。現地実行委員会顧問として全体運営にご配慮いただきました中部大学の飯吉厚夫総長、山下興亜学長、後藤俊夫副学長をはじめとする関係の方々の多大なご尽力に対しまして、この場を借りてお礼申し上げます。

最近の応用物理学会の秋季応用物理学会学術講演会の参加者は、6500 名から 7000 名の間を推移し、従来と比較して多くなっております。このように、参加者が増加したことの理由としていろいろ要因が考えられますが、その中に充実したシンポジウムの企画があげられます。前回の報告にもありますように、学会のシンポジウムに参加すれば、最新の研究状況が当該分野の第一人者から直接聞くことができ、一つのテーマに関して非常に充実した情報を入手することが可能になっています。今回の講演会でも、分科会・研究会など企画のシンポジウムが 28 テーマについて開催されました。このような企画は、会員にとっても大変有意義と考えられます。今後とも充実したシンポジウムを企画できるよう、努力したいと考えています。

今回の講演会では、一般講演 3327 件、シンポジウム・分科内総合講演などが 578 件 (一般講演の持ち時間 15 分で換算) を合わせて 3905 件の講演申し込みがあり、42 の口頭発表会場、ポスター講演会場、および三浦幸平メモリアルホールで活発な討論が行われました。また、今講演会では下記のような特別企画が実施され、参加者の興味を引きました。

## ①特別シンポジウム「窒化物半導体高輝度発光デバイス研究の現状とインパクト」

このシンポジウムでは、応用物理学会を舞台にして達成された青色発光ダイオードの発明に直接かかわった方々から研究の現状を述べていただき、併せて学生や若い研究者に熱いメッセージを贈ってもらいました。三浦幸平メモリアルホールが満席となり、別会場と合わせて、参加者は 800 名を超えました。

## ②特別セッション「鉄系新高温超伝導体」

鉄系の新高温超伝導体は講演申し込み締め切り後に急速に研究が展開したもので、分科会からの提案で急きょ設定されました。約 130 名の参加者があり、熱心な討論が交わされました。重要な研究テーマについては、応用物理学会はこれからも柔軟迅速に対応したいと考えています。

## ③応用物理学会・科学技術振興機構共同企画シンポジウム「JST イノベーションブリッジ 医工融合を見据えた学から産へのシーズ発表」

医工連携は、応用物理の新たな分野の可能性を示しています。今回のシンポジウムは科学技術振興機構 (JST) との共同企画として、新しい展開の可能性を探索しました。約 90 名の参加者がありました。

## ④人材育成・男女共同参画委員会他共同企画シンポジウム「学会における若手人材育成」

本シンポジウムには約 160 名が参加いたしました。優れた研究者のためのたくさんのノウハウが紹介されました。

## ⑤人材育成・男女共同参画委員会特別企画「博士のキャリア相談会」

この企画は理化学機器展示会ブースの一部を使って実施され、企業など 16 機関が相談コーナーを開設し、約 200 名の参加者がありました。このような企画は大変重要であると考えられますので、引き続き検討される予定です。

## ⑥応用物理学会スクール「省エネ・低環境負荷技術の最前線と将来展望」

スクールでは、地球環境保全の観点から最も関心が高いテーマで開催され、多くの参加者を集めました。

以上のように、今回の応用物理学会は魅力あふれる企画が多く、参加者には多様な関心を寄せる機会を得ることができたものと考えております。このような魅力的な企画を立案された多くの委員の皆様、最後に感謝の意を表します。

講演会の今後の展開としては、DVD-ROM 化があげられます。電子化することにより、予稿集の利便性をいっそう向上させるとともに、会員に負担にならないような価格体系を検討しております。会員の皆様のご理解とご協力を

\* 京大院工